

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 3 月 29 日

仕 事 の 内 容	認知症高齢者等居場所お知らせサービス事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名	伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施 策 番 号	2 - 2	-
【施策名】 高齢者保健福祉の推進	総合計画書 (ページ)	51	

予算名	款 3	民生費	項 1	社会福祉費	目 3	老人福祉費	事業 4	高齢者日常生活支援事業
-----	-----	-----	-----	-------	-----	-------	------	-------------

1 この 仕事 の 目 的	① 誰(何)を対象にしていますか。 市の区域内に居住し、住民基本台帳に記録されている者で、次に掲げる要件を備えている者を同居して介護している者：①65歳以上の認知症高齢者又は40歳以上65歳未満の初老期における認知症と診断された者②徘徊行動のある者*但し、市長が特に必要と認められた者も対象者とすることができる。	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 不明
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 居場所お知らせサービス事業を実施することにより、徘徊行動のある高齢者等の身体の安全の確保及び当該高齢者等を介護している家族等の介護の負担の軽減を図り、もって高齢者等及び介護者の福祉の推進に寄与する。	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 利用者数
	③ そのために何をしましたか。 市民から利用希望があった場合、担当区域の高齢者ほっと支援センターの相談員が自宅訪問により、状況確認する。同センターからの申請代行を受けて、市が内容確認し、承諾の可否を決定する。決定後、介護者に対し、探索専用端末機器を貸与する。	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 利用者数

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標 の 推 移	対象指標	①の数値	人	不明	不明	不明	
	成果指標	②の数値	人	5	8	6	
	目 標	②の目標値			8	6	6
	目標値設定の考え方		高齢者世帯への日常(在宅)生活の支援を図るため、前年度実績を目標に設定した。				
	活動指標	③の数値	人	5	8	6	

3 経 費	事業費(実績)		円	37,044	67,716	51,732	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	24,244	36,616	22,032	
		特定財源	円	12,800	31,100	29,700	
		(うち受益者負担)	円	12,800	31,100	29,700	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.05	0.05	0.05	
		所要人数(再任用)	人	0	0.0	0.0	
職員人件費(再任用以外)		円	413,350	412,650	412,200		
職員人件費(再任用)		円	0				
事業費+人件費		円	450,394	480,366	463,932		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環 境 変 化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	平成13年9月1日から施行。介護者の負担軽減を図り、もって高齢者等及び介護者の福祉の増進に寄与することを目的としている。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	高齢化に伴い、認知症高齢者も増えており、徘徊行動のある高齢者も増加傾向にある。毎年、市内でも行方不明高齢者が発生し、発見・保護されるケースがあり、件数は微増である。

仕 事 の 内 容	認知症高齢者等居場所お知らせサービス事業				
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名 伊野宮 崇

5 市 民 等 の 意 見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について				
	特になし				
6 市 民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）				
	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点				
7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容				
	探索端末専用機器を身に付けて外出することが難しい認知症高齢者にとっては、利用しづらいものとなっている。				
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。				
	認知症高齢者が探索端末専用機器を身に付けて外出することが難しい場合が多いため、利用しやすい探索機器の情報収集を行った。				
8 今 後 の 方 向 性	(3)(2)を踏まえた今後の課題				
	継続して情報収集を行っていきたい。				
	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）				
今 後 の 方 向 性	認知症高齢者にとって探索端末専用機器を身に付けて外出することは難しい場合が多いため、利用しやすいGPS機能を持った機器導入を模索する必要がある。				
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等				
	他市の取組事例についても研究を行う。				
成 果	(3)改革・改善案による期待成果				
	上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成 果	成果を向上させる。			経 費	仕事の経費は維持する。